

2010 年度第 5 回執行理事会議事録

期 日：2010 年 10 月 9 日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 藤本常務理事 斎藤副常務理事 石渡 小嶋 高木 内藤 藤林 星 向山 各理事
事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：久田（藤本） 渡部副会長（会長） 坂口（議場） 西（藤本） 平田（会長）
山口（議場） 井龍（委任なし） 中井（委任なし） 各理事

* 定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 10 名，委任状 6 名，合計 16 名の出席で執行理事会の開催は成立。

* 前回の議事録の承認，前前回の議事録はすでに理事会に報告された

I 審議事項（関連する報告事項と合わせて説明）

1. 学会標準策定活動について（渡部副会長→藤本常務理事）

2. 学会における受託事業について（渡部副会長→藤本常務理事）

1 及び 2 について

学会標準委員会のようなものは作らない。総務部会で受託基準のガイドラインを作成する。それに従って総務部会のもとに業務委員会を作って窓口とする。個々の事業については、事業ごとの委員会を理事会の基に作って個々の受託に答えるような仕組みをつくる。ただしスピーディな対応ができるか疑問だが、そのような対応が必要かも今のところ不明。12 月の理事会に再度説明できるよう準備する。

地層名委員会→IUGS 対応，地層命名のガイドライン（当面仕事はない）に対応。学術研究部会の下。現在，天野氏が対応。

地質基準委員会→海洋地質基準を作成中（安間氏が対応）。陸上は動いていない。学術研究部会の下。新妻氏が対応してきた。

JIS 委員会→斎藤靖二委員長（地質学会推薦）をサポートする体制が必要。

柏崎の構造調査→運営財政部会の下業務委員会でもう少し依頼側の状況を見てから判断する。

保安院からの依頼→長期安定性について。原子力学会との交流が必要（例年原子力総合シンポジウム（5 月/学術会議）の共催をしている。シンポジウムの運営委員会には高橋正樹氏でている）。地質環境の長期安定性研究委員会も参画。同委員会が作成中のリーフレットを交流のきっかけにしてはどうか。

3. 友の会について（広報委員会：内藤理事）

坂口執行理事の持つ SNS で β テストをすることを承認する（経費不要）。ルール，テーマ別に作られる掲示板，負荷の情報を収集し，正式版をどういうスタイル，システムで行うか検討する。運営管理は坂口執行理事。不適切な投稿等に注意していくことが重要。

院生など、実際に使っている人たち（ワーキンググループの周辺）にもテストに加わってもらう。本運用の場合は最低 5000 円/年の負担が発生する。

4. 茨城大会関係（行事委員会：星理事，総務委員会：向山理事）

1) 鉱物科学会との共催について（共催の目標・意義の確認，非会員筆頭発表についてほか）

- ・2回出席していた人には金銭的メリットがある。地質学会を予稿集込み6000円は厳しい。
- ・要旨も一本化という完全理想型に近づけばよいが，相手との協議
- ・鉱物科学会では非会員が筆頭でも会員が入っていれば発表できることが地質学会とは異なる
- ・会計担当理事の試算ではなんとか実行可能。
- ・昭和46年に地質関係5学会でやったことがあるが，その時と今では会の運営状況が全く異なるので，参考にはならない。
- ・共催ではセッション数が多くなるので，日程上シンポジウムは減らさざるを得ないかもしれない。
- ・スローガンは現地実行委員会（＝関東支部）に任せる（案等の提案はする）。関東地域としての特色の出た学会であればいい。
- ・鉱物科学会との共催は地質学系学会の協力体制の集大成になる。

完全共催の場合は，以下のやり方もある

- ・非会員でも会員が発表者にいれば発表を認める。
- ・非会員の参加登録費は会員より高く，発表する場合には費用を取る。
- ・複数発表を認める場合には2件目の発表は会員でも課金する。
- ・要旨も1つ，会員資格も1つでやる。（ただし学生，院生等の区別はある）

2) シンポジウム等の申し込みとスケジュール

- ・関東支部&LOC，鉱物科学会にたいし，今日の議論に基づいて，会長が大会のざっくりとした方針を示す。
- ・早急に双方の学会，LOCとで意見調整をする。地質学会側は星行事委員長が代表として交渉する。
- ・シンポジウムは募集数を限定して募集する等の措置を検討する。

3) 見学旅行申し合わせ事項の修正について

- ・「行事委員会は，提案内容の確認を行い，実施コースの諾否を最終的に決定する。」→「実施コースに問題が認められる場合は実行委員会に対して改善を求める。」と修正。

5. その他

(1) 学術の大型研究計画に関する調査（平成22年度）について ー大型研究計画マスタープランの改訂ー（締切11/15）への対応

- ・何をコメントすればいいのか不明瞭なので，学術研究部会で意見のとりまとめをする。
Geo-Flashには掲載済み。マスタープランは43計画あり，そのうち地球科学関係は8計画

(2) 来年度予算のパブリックコメントへの対応

- ・GeoFlashには掲載済みなので会員に任せる。数ぐらいが対象になる。

(3) 来年の合同大会のセッション提案

- ・12の既存セッションの主催もしくは共催を指示することが望ましい。
- ・セッションの世話人が専門部会を通じて行事委員会の了承をとって応募することによって，地質学会の主催もしくは共催を認める。ふさわしい専門部会が無い場合は行事委員会で直接受け付ける。各専門部会には行事委員を通じて忘れずに連合にエントリーするよう確認する。

(4)澤木事務局員の産休・育休（2011年4月～）取得による編集業務体制等について

- ・関連細則の策定
- ・細かな手続きを検討し定める。在宅もルールとして考える。
- ・編集業務の委託(日本印刷)に、見積もりを依頼中。地質学雑誌については、編集委員長、副委員長に校正その他についてこれまで以上の協力体制が望まれた。文献のチェック(英文併記)が重要。2月以前から外部委託をすることを考える(金額次第)。地質学雑誌、地質学会 Newsとも外部委託の場合はチェックと最終決裁体制が重要。このほか人手不足の面はアルバイト等でしのぐことも考える。

II 報告事項

(1)運営財政部会：総務委員会

<外部の賞の募集>

1. 富山県ひとづくり財団より、第28回とやま賞の候補者推薦依頼：推薦〆切11/22(月)
2. 日産科学財団より「日産科学賞」の一時中断お知らせ。賞の内容を時代と財団の活動に合致したものにするため検討予定。

<共催・後援その他依頼・要請等>

1. 大学評価・学位授与機構より、機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦について依頼：推薦〆切11/5日(金)
 - ・地質学会に関係した案件が無い限り、お声はかからない。会長一任。
2. 地理学連合より関連学協会に対し「学術研究における大型プロジェクトの推進について」協調してパブリックコメント提出の要請があった。
3. 計測自動制御学会より、第36回リモートセンシングシンポジウムの協賛依頼があり、例年どおり承諾。
4. 2010 土壌・地下水環境展の開会式、レセプションの招待、会長、担当理事とも欠席の返事。

<その他>

1. 秋田大学鉱業博物館より、企画展「北投石の真実」への雑誌貸出に対する礼状があった。
2. 広島大学地球惑星システム学専攻、女性教員公募：HP、ジオフラッシュ掲載
3. 国土地理院より、「中部地方の古地理に関する調査作業（狩野川・安倍川・大井川）」成果公表をHP上にて、今年中に行うとの連絡があった。
4. 11/22 連合学協会長会議 ←会長出席予定

<会員の動静その他>

1. 今月の入会者（6名）
 - 正会員（4名）齋藤崇人、山本和幸、土生居弘、鹿島雄介
 - 正〔学部割〕会員（2名）羽鳥剛史、東宮匠吾
2. 9月末日会員数
 - 賛 28 名誉 75 正会員 4134(内訳:正 3915, 院割 198, 学部割 21) 合計 4237(昨年比 -117)

(2) 運営財政部会：会計委員会

1. 茨城大会の予算、特に鉱物科学会と調整について(審議のとおり)

(3) 広報部会：広報委員会

1. フォトコンの募集開始：HP の開設，ポスター作成し各方面に発送予定

(4) 学術研究部会：行事委員会

1. 富山大会の総括，今後の課題等について
2. 2012 年以降の年会開催地について，富山大会会場において折衝の結果
2012 近畿・四国ブロック：大阪府立大学（開催日 9 月 15-17 日 予定）
2013 東北・北海道ブロックに依頼，折衝中。
2014 西日本支部，2015 中部支部

(5) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

1. 2012 年の 34thIGC(オーストラリア，ブリスベーン)のプロモーションについて(石渡)
現地，事務局長 Ian Lambert 氏の来日が確定，11 月 9 日 15 時～17 時まで JAMSTEC 東京事務所においてプロモーション活動を行う。11 月 10 日には GSJ/AIST を訪問する予定。
・連合各学会および地質系の学会等には、会長名で参加を呼び掛けるなど，人を集める対策をする。学会として受け入れる以上、しっかり対応する必要がある。

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1. 編集状況報告（10 月 8 日現在）。
2010 年度投稿論文 総数 53 編 [総説 18（和文 18），論説 22（和文 20・英文 2），報告 4（和文 4），
短報 7（和文 7）ノート 2（和文 1・英文 1）] 口絵 10（和文 5 英文 5）
査読中 43 編 受理済み 25 編（うち通常号 11 特集号 14）
・ 116 巻 10 月号：論説 4・短報 1・口絵 1（計 56 頁，現在校正中） 1
・ 16 巻 11 月号：特集号「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」（世話人 高木秀雄ほか）現在入稿準備中。
2. 特集号「日本海沿岸褶曲・断層帯の形成・成長と地震活動」（世話人 高木秀雄ほか）
116 巻 11 号掲載予定。現在入稿準備中。
3. 特集号「第四紀の新定義と日本列島の第四系」（世話人 斎藤靖二・佐藤時幸・井龍康文）を受付，編集作業を開始した。
4. 11 月末にかけて，任期が終了する委員（6 名）に対し，退任・継続等の確認中
5. 富山大会ランチョンにおいて，特集号の編集管理体制や雑誌の組版の改善等について議論があった。
早期に受理された特集号の論文を J-Stage で公開することを考えている。

(7) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

1. 編集状況報告【資料 8 参照】

(8) 編集出版部会：企画出版委員会（担当：山口，藤林）

1. 城が島リーフレット（蟹江会員）完成。2. 地層処分に関するリーフレットは担当の山口執行理事らのチェックが済み，地質環境の長期安定性研究委員会に返却。

(9) 社会貢献部会（藤林）

1. 地学教育委員会（中井）
・地学教員の採用については引き続き情報収集する

- ・高校の校長会が採用数の権利を持っている場合があるので、高校の校長会にアプローチすることも考える。

2. 地質の日事業推進委員会（藤林）

9月29日(水)15:00～17:00に第4回地質の日事業推進委員会が開催された。藤林欠席，斎藤理事（事務局）と平田理事（委員長）出席。

応用地質学会と共催のイベントを調整する。斎藤が応用地質学会担当者と調整して，社会貢献部会に引き継ぐ。

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

1. 山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定された。
2. 新たな情報をもとに，ポスターのオンライン版を作成し，学会のホームページに掲載した。
3. 今後は夜間小集会での議論をふまえて，ホームページを充実させる予定。